



翠清会 ニュース

日本医療機能
評価機構認定施設

12月号
(172号・第1版)
2009.12

病院理念

Patient First「患者さん第一」

ファースト・オピニオン(First Opinion)を提示でき
セカンド・オピニオン(Second Opinion)を
求められる病院に!

基本方針

- 脳神経外科・神経内科専門病院のスタッフとして社会的責任をはたし、24時間常に質の高い医療を提供します。
- 患者さんの安全と安心を確保し、常に医療事故の予防と対策につとめます。
- 患者さんの権利を尊重し、病状説明と情報(カルテ)開示を行います。
- 患者さんの個人情報の保護を確実に行います。
- 急性期から慢性期、在宅まで地域の関連機関と連携を強化します。
- 翠清会の職員である誇りを持ち、常にプロとしての実力を高める努力をします。

第5回 翠清会梶川病院 STROKEセミナー

2009.11.11にオリエンタルホテル広島において、「第5回翠清会梶川病院 STROKEセミナー」を開催致しました。今回は私から「悲劇を繰り返さない為に～こうやって防ぐ脳卒中～」、須山副院長から「脳卒中における外科的治療～当院での現状～」、小樋薬剤師から「ワーファリンによる適切なINR管理を目指して」、国本SWから「アンケート結果報告～より良い医療連携を目指して～」を発表させて頂きました。さらに、広島市総合リハビリテーションセンターの加世田ゆみ子副院長から「当院における回復期リハビ

リテーションの紹介」と題して特別講演をして頂きました。今回もお忙しい中、総勢で63名と数多くの診療所、病院、施設の医療スタッフの方にご参加いただき、その後の懇親会を含め、活発な意見交換を行うことができました。若林院長がclosing remarksとして述べましたように「地域が1つの医療機関として機能する仕組み」をめざし、このような場を含め、皆様とよりよいコミュニケーションが行えるよう努めて参りたいと考えておりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

野村栄一



脳動脈瘤の治療について

副院長(脳神経外科) 須山嘉雄

脳動脈瘤とは脳の血管(動脈)の一部が“コブ”的に膨らんだものをいい、成人の約2~6%がもっているといわれています。このような動脈瘤ができるはっきりとした原因是わかりませんが、高血圧や動脈硬化、喫煙、家族性などがいわれています。また、一部の遺伝性疾患に脳動脈瘤が発生しやすいことも知られています。

脳動脈瘤は破裂するととも膜下出血(翠清会ニュース2008年12月号をご参照ください)をきたしますが、まだ破裂していないものを未破裂脳動脈瘤(以下:未破裂と略します)といいます。破裂する頻度は年間約0.5~1%程度と報告されています。未破裂であれば通常は無症状ですが、破裂しても膜下出血になると激しい頭痛を生じたり、意識障害を来します。破裂あるいは動脈瘤が大きくなる因子としては、多発性、女性、年齢が70歳以上、動脈瘤の場所が関与していると考えられています。

とも膜下出血になると1/3は死亡、1/3は障害を残すといわれており、非常に予後の悪い病気です。未破裂の場合には様子観察することができますが、破裂したものは再破裂を予防するために緊急で外科的治療が必要です。未破裂の段階でも動脈瘤の大きさ、年齢、全身の状態などを考慮し、十分な説明を受けていただいた上で手術をすることが可能です。

手術は破裂も未破裂も同じ方法で、開頭によるクリッピング術(図.1)といわれる方法と足の付け根からカテーテルを入れ、動脈瘤の内側からコイルをつめる血管内手術(図.2)があります。



開頭クリッピング術はクリップと呼ばれる小さな洗濯バサミのようなもので動脈瘤の根元を閉塞し、動脈瘤への血流をせき止める方法です。この方法は20年以上行われており長期成績も確立されています(最近になり、再発例などの報告がありますが)。血管内手術は最近10年くらいの間に発達してきた治療法で、細いカテーテルを動脈瘤内まで進め、カテーテル先端からコイルと呼ばれるものを出して詰めていきます。ただし、血管内治療の未破裂に対する长期治療成績は、確実な結果がまだ発表されていませんし、クリッピング術と比較して再発が多いともいわれています。どちらの治療にもメリット、デメリットがあります。開頭術は必ず全身麻酔が必要であることや美容のこと、脳を触ることがデメリットです。血管内手術は局所麻酔で可能、脳を触らないメリットがある一方で、再治療の可能性が開頭術に比べて高く定期的な経過観察を必要とします。どちらの治療が安全でどちらが危険とは一概にはいえません。当院では患者さんの希望をお伺いした上で、年齢や動脈瘤の場所、大きさや形、全身状態などにより治療法を選択しています。治療成績ですが未破裂の場合、どちらの治療方法でも後遺症を残す重篤な合併症は5%、死亡率は1%といわれています。

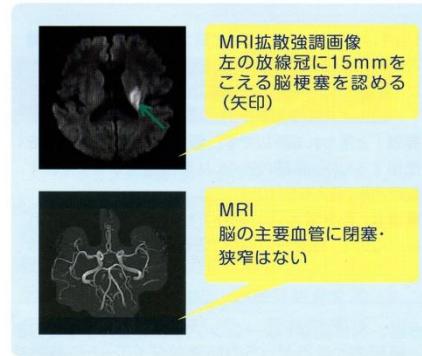
(参考資料: 脳神経外科学会ホームページ:
脳神経外科とその疾患の解説より)

脳梗塞といつても実は…6

副院長(神経内科主任部長) 野村栄一

これまで述べてきましたように、脳梗塞は、「アテローム血栓性脳梗塞」、「心原性脳梗塞症」、「ラクナ梗塞」、「その他」に分類されます。第1回でラクナ梗塞は、「小さい血管が詰まって生じる大きさが15mm未満の脳梗塞」で他の脳梗塞に比べて扱いやすいと述べました。ところが、同じように穿通枝とよばれる小さな血管が詰まっているのに非常に扱いにくい脳梗塞があります。この脳梗塞はラクナ梗塞に比べ、より根元から血管が詰まることで15mmを超えるような比較的大きな脳梗塞を生じ、強い麻痺が残るなどの重い後遺症が残ることが多いです(図)。適切な日本語がなくBranch Atheromatous Disease (BAD)とよばれます。イメージとしては大きな血管の動脈硬化が原因となる「アテローム血栓性脳梗塞」と小さな血管の閉塞による「ラクナ梗塞」の中間に位置します。ただ、発症したときは症状が軽くラクナ梗塞と区別できず。入院後に治療を行っているにもかかわらず麻痺が進行するので(約3人に1人)、患者さんにも主治医にも非常につらいタイプの脳梗塞です。ラクナ梗塞の患者さんに比べてBADの患者さんでは、糖尿病、高コレステロール血症、肥満の割合が高いといわれていますが、MRIでも残念なことに穿通枝はみえませんので、どの穿通

枝がどのあたりで詰まっているのかわかりません。したがって、今のところ両者の区別は入院時には困難な場合が多いのが現状です。当院ではBADが少しでも疑われる場合は、入院後は絶対安静とし、血液をサラサラにする薬(抗血栓薬)、脳保護薬、コレステロールを下げる薬などを用いて全力で症状の進行防止に努めています。こんな軽い症状なのにベッドで座ることも許されないので!と時におしかりも受けますが、今述べてきましたことをご理解頂き、是非ともご協力頂ければと思います。



免疫力を高め風邪の予防をしましょう

一日の温度差が激しくなり風邪をひきやすい季節となりました。今回は風邪の予防について取り上げてみたいと思います。

◆風邪をひくのはなぜ?

☆風邪は ①温度変化 ②ウイルス ③睡眠 ④栄養、といった要素が絡み合って起こります。

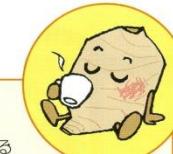
◆風邪の予防に

☆規則正しい食事と休息を 寝不足、過労、栄養不足、生活リズムの乱れは体にとってストレスとなり風邪をひきやすくなります。なるべく規則正しい生活を心がけましょう。

◆風邪をひいてしまったら?

☆温かく、水分の多い食品を 葛湯、粥、スープ、温かい牛乳など体を温めるものを摂るようにしましょう。

栄養部通信



<体を温める生姜>

生姜は体を温め血流を良くする働きがあるといわれています。そのため、悪寒のする風邪のひき始めには効果的です。ただし、発熱の強い場合は避けた方がよいでしょう。

生姜は体に悪い作用はほとんど無いと言われています。料理に入れたり、生姜湯、生姜紅茶などを飲み体の中から温め、冷えを防ぎましょう。

栄養部 塩野麻美

当初掲載予定でした「ダイエット開始後の栄養指導・経過報告」ですが、都合により次号掲載となりました。ご了承ください。

リハビリ部通信

ダイエットに
必要な
筋肉って?!

今回も前回に引き続き、ダイエットに関する内容でお届けしたいと考えています。前回は「日常の中に運動を取り入れて、全身の筋肉を用いる有酸素運動を…」という話をしました。…全身の筋肉を?全身の筋肉と言つても、人間の身体は約400種類からの骨格筋からなり、骨格筋は筋繊維○×▲□※…まあ、収縮速度の違いから赤筋(遅筋)と白筋(速筋)という風に分類することができます。

理学療法士 山崎裕士

●赤筋は身体の内部に多く、呼吸のために肺を動かしたり、姿勢を維持するため骨を支えたり、血液循環を促すために伸び縮みするなど、生命維持のために働いています。

ジョギングやウォーキングなど持久力を必要とする運動の時はこちらを多く使用しているわけですね。エネルギー源は脂肪で、一緒に酸素も必要になるので、「ダイエット」には酸素をしっかり取り込む有酸素運動が有効」と言われる所以です。酸素を取り込んで脂肪を燃焼するため、赤筋の近くには毛細血管が多く存在するので赤く見えるわけです。家事などの日常生活の動作でも充分に赤筋は使われるううなので、日頃からよく動くこともダイエットになりますよ?

●白筋は身体の表面近くに多く、走ったり、飛んだり、重いものを持ち上げたり、力を使う運動で働く筋肉です。瞬発力が必要とされる場合には、白筋を多く使っているという事ですね。

短距離走の選手なんかはコッチの筋肉が多いとされています。グリコーゲンがエネルギーで赤筋のように酸素を必要としません。白筋は筋肉の外側に多いのでアウターマッスルと言われており、皮膚のすぐ下に多く存在しているため、白筋を鍛えれば体が引き締まって見えます。しかしながら、白筋は赤筋よりも繊維が太いので、体型を気にする女性の方は、白筋よりも赤筋を鍛えるトレーニングをしたほうが良いかもしれません。白筋は加齢とともに減少するので、レジスタンス運動(次号で紹介!)で減少した白筋を改善することをお勧めします。

今回、具体的なトレーニング方法に触れる事はしませんでしたが、いずれまたお便りします。で、結局のところどっちの筋肉がダイエットに有効なのか!?という話ですが、上記の説明を読んである程度お分かりになったかもしれません、有酸素運動で赤筋を鍛えて脂肪を燃焼し、白筋を鍛えて身体の引き締め効果を狙う!!美しいボディを手に入れる為には、赤と白、どちらもバランスよく鍛えましょう!!



■医療法人■
翠清会 梶川病院

〒730-0046 広島市中区昭和町 8-20
TEL.082-249-6411 FAX.082-244-7190